



石巻広域クラブ通信

<No.68>

THE Y'S MEN'S CLUBS OF GREATER ISHINOMAKI
CHARTERED MAY28, 2016

YMCA-ISHINOMAKI-CENTER
KyuEikoyochienchinai2-12-3,Okaidokita,
Ishinomaki, 986-0854,Japan

〒986-0854 石巻市大街道北2-12-3
旧栄光幼稚園 2階 YMCA 石巻センター
電話 090-6252-7970(日野)090-2365-7940 (清水)

2022年4月号

E-mail: gishinomaki@gmail.com

E-mail: kochan-send.2@plum.plala.or.jp

== 2021-2022年度 主題 ==

クラブ会長 日野 峻「絆を深めて、共に喜びをもって活動しよう」
北東部部長 南澤一右(仙台青葉城)「続」変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！
東日本区理事 大久保知宏(宇都宮)「私たちは次の世代のために何ができるか？」
アジア太平洋地域会長 大野勉(神戸ポート)「100年を超えて変革しよう」
国際会長 キム・サンチェ(韓国)「世界とともにワイズメン」

<今月の聖句>

「あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない」(詩編9:11)

<強調月間> UN Project/RBM

4月第一例会プログラム

日時 4月22日(金) 18:30~20:30
場所 YMCA石巻センター(旧栄光幼稚園2階)
当番 関川祐一郎・千葉直美

司会 斎藤 勉

1. 開会点鐘 会長 日野 峻
 2. ワイズソング 一 同
 3. ゲスト・ビジター紹介 書 記
 4. 会長あいさつ 日野 峻
 5. 聖句朗読・食前感謝 関川祐一郎
 6. 食事・懇談 一 同
 7. ゲストスピーチ
- Barcarolle Sant-Juan 代表 久我真奈美 様
テーマ:「バルカローレ・サンファンの活動」
8. 諸報告とアピール
 - ①石巻と神戸を繋ぐチャリティーコンサートについて
 - ②思い出のランドセルギフトプロジェクトについて
 - ②YMCA・事業委員会報告など
 9. ハッピーバースデー 会 長
 - 4/5 千葉 徳正さん、4/17 南 奈央子さん
 - 4/18 石川 光晴さん、4/30 田村 愛さん
 10. ニコニコ 会 計
 11. 閉会あいさつと点鐘 次期会長 青木まりえ

歴史から学ぶ～ウクライナ情勢～

石巻広域ワイズメンズクラブ
21-22会長 日野 峻

大学生の時、歴史学の教授が「現在そしてこれから先のことを正しく認識するためには、歴史を学びなさい。無駄にはなりません。」と話されていたことを思い返し、ウクライナ情勢についての情報収集を試みた。



①ロシア黒海艦隊の戦艦「ポチョムキン」で水兵たちが反乱を起こしたのは1905年6月。国に革命機運が高まっていたころである。食事の肉の腐敗に怒ったのがきっかけで、兵士たちが蜂起して艦を掌握。ゼネストが行われている黒海沿岸の『オデッサ』に入港し、人々に歓迎された。赤旗を掲げた艦。ソ連が生まれるロシア革命の先駆的行動とみなされ、反乱を題材にした無声映画もよく知られる。ウクライナに侵攻する現在のロシア。(次ページにつづく)

3月データ/4月内容(巻頭言、6月記念例会・モニターツアー案内など)

例会出席	23名	在籍会員数	22名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー	11名	月間出席者	10名	スマイル	10,800円	74,154円
ビジター	11名	メーキャップ	1名	ファンド	0円	89,002円
ゲスト	9名	月間出席率	50%	BF	0円	0円

会 長 日野 峻
副会長 青木 満里恵
" 石川 光晴
書 記 清水 弘一
会 計 櫻井 美智江
直前会長 大林 健太郎
担当主事 斎藤 勉

●本例会: 毎月 第4金曜日(18:30~20:30) ●第2例会(役員会) 第2金曜日

(前ページよりつづく)

「モスクワ」が沈没した。ウクライナに侵攻する現在のロシア。黒海艦隊の旗艦であるミサイル巡洋艦「モスクワ」が沈没した。

②9世紀頃、バイキングが築き、スラヴ人が住み着いたキエフ大公国。この地を統治していたのは、ロシア語でウラジミール大帝(ウクライナ語でウオディミル)であった。【なんと、ウラジミール・プーチンRUとウオディミル・ゼレンスキーUA】

モンゴルの侵略で分裂。【当時は中国の領土も含まれていたらしい】ウクライナはさまざまな民族が交わる場所に位置している。このため、民族間の紛争は絶えなかった。

③1930年代のソ連時代に食糧危機、飢餓があった。豊かな穀倉地帯を有するウクライナはソ連の食糧供給地であった。スターリンは、「フォルドモール」という集団で農業に従事させるため、意図的に飢餓を起こし、何百万人ものウクライナ人を死に追いやった出来事があった。その東部の人口を埋めるため、多くのロシア人を移民させたので、ウクライナの東部はロシア寄りの人が多い。一方、ウクライナの西部はポーランドなどの国々からの支配があり、ヨーロッパ寄りの支持者が多い。

④1991年12月ソ連の崩壊に伴い15の国が解放された。ウクライナは東部のロシア派と西部の欧米派に分かれていた。新生ウクライナはロシアの支配から抜け出そうとしていたが、国内事情はもとより、ロシアとは互恵関係にあった。特に、ロシアからヨーロッパに送る原油は、ウクライナを通るパイプラインが最も近道だったし、ウクライナも関税が得られる。

⑤親欧米の政権は、2003年NATOからの要請でイラク戦争にウクライナ軍を派遣している2004年のウクライナ大統領選挙で親ロシアのヤヌコビッチが当選したが、選挙に不正があり、激しいデモやストライキがあり、再選挙をすることになった。結果は親欧米のユシチェンコが当選したが政権内部で分裂が起きた。またの再選挙では親ロシア派のヤヌコビッチが再び当選したが、国民の要望だったEU加盟を遠ざけたり、ロシア寄りの政策をとった結果、2014年国民の不満が爆発して、激しい反政府デモが起き、ヤヌコビッチ大統領を国外に追放した。逃亡してロシアに脱出。操り政権を失い、焦ったロシアは元々ロシア(ソ連)領地だったクリミア半島を併合した。そこは海軍基地、商業港として機能していた重要な要衝地であり、クリミアはロシアの帰属意識が高い。クリミア自治共和国として独立宣言した。

⑥2014年7月17日にマレーシア航空17便が撃ち落とされたことがきっかけで、ウクライナの東部ドンバス地方では分離独立派が制圧し始めた。ウクライナ軍が本格的に動き出し、制圧した。それに



恐れをなしたロシアが軍事介入して、ドネツク州、ルガンツク州が親ロシア派に支配された。世界が動き出し、停戦を意図したミンスク合意が結ばれた。しかし、これは全く機能していなかった。また、北大西洋条約機構とワルシャワ条約機構との対立もあった。

⑦地政学的にみると、ウクライナは緩衝国であり、ヨーロッパへのロシアの原油、天然ガスを送るパイプラインなどが最も短いルートで送れる。しかも、ウクライナにも大量の天然ガスがあることが発覚した。それを得ようと東部のその付近で紛争し制圧しようとしていたのも確かである。

⑧2021年11月10日ロシア軍がウクライナ国境付近で怪しい動きがみられた。28日には、ロシア軍10万人が集結して軍事演習。12月17日プーチン大統領が世界にいくつかの提案をした。宣戦布告の前哨とみられる。ロシアが2月24日にウクライナに攻め込み、戦争が始まった。ウクライナ市民の犠牲は増え続けており、国際社会からはロシアへの厳しい非難の声が上がっている。世界の多くの国を敵にまわしても強行に戦争する理由はどのようなものは、後の歴史が明らかにするであろう。



今、率直に思うのは、この戦争は、いつどういう形で一旦終わるのだろうか。複雑に入り乱れた禍根の歴史、分断は、今後どうなっていくのだろうか。世界情勢が劇的に変わるのだろうか。一刻も早くロシアのウクライナへの侵略をストップし和解と平和が訪れることを願わずにいられない。(↑上記折鶴写真2葉は仙台青葉城クラブ古屋博規ワイズより提供されました。)

6周年記念例会のご案内

日時：2022年5月27日(金)18:30～

場所：YMCA石巻センター

プログラム：当クラブは5月でチャーターして6周年を迎えます。新型コロナ禍の折ですが、感染対策を講じながら内輪の感謝と記念の例会を持ちたいと思います。ゲストスピーカーにNPO法人ひたかみ水の里代表理事新井高広さんをお招きしております。(詳細は後日ご連絡します)

3月第一例会報告

日時 2022年3月25日(金) 18:30~20:00
 場所 YMCA 石巻センター
 出席者 青木満里恵 (Z)、大林健太郎、川上直哉、斎藤
 勉 (MC)、櫻井美智江、清水弘一、関川祐一郎
 千葉直美、日野峻、平井順子

＜ゲスト＞長沼利枝様 (3.11 こども文庫の会)
 千葉道生様 (一社カリタス南三陸)、井上友里
 子様・鈴木道剛様 (カリタスボランティア)、
 久我真奈美様 (Barcarolle Sant-Juan 代表)、
 星由貴様 (ピアニスト)、石倉様 (島根県)

＜ビジター＞小川圭一様 (東京世田谷クラブ)

1. 開会点鐘 日野会長
2. ワイズソング 一同
3. ゲスト・ビジター紹介 書記
4. 会長あいさつ
5. 聖句朗読・食前感謝 関川祐一郎
6. 食事・懇談 一同
7. ゲストスピーチ

一般社団法人 カリタス南三陸 千葉 道生様
 テーマ:「Ubi Caritas」

8. 諸報告とアピール 各担当
 - ①バルカローレ・サンファン少年少女合唱団の紹介
 - ②思い出のランドセルギフト報告とアピール
 - ③YMCA・事業委員会報告など
9. ハッピーバースデー 会長
 3/2 青木まりえさん、3/12 小笠原均さん、
 3/20 阿部かよ子さん、3/30 木村 麻呼さん
10. ニコニコ 会計 櫻井美智江
 「ウクライナ支援募金のために」 10,800 円
11. 閉会あいさつと点鐘 会長 日野 峻
12. ピンクシャツデーアピール 全員



＜例会報告＞

2022年3月25日午後6時半から、YMCA 石巻センターにて、例会が行われました。4月30日の「ジョイントコンサート」にご出演くださる「バルカローレ・サンファン」の星先生・久我先生もお越しくございました。東京、島根県からオンラインでのご参加もあり、賑やかな時となりました。(次行へ)

ゲストスピーチは「カリタス南三陸」の皆さんでした。代表の千葉道生さんは、ご父君まで代々、米川(登米市東和町)の方でした。震災を契機に、千葉道生さんも米川に移られ、今も支援活動を続けておられます。2011年3月、千葉さんはフランスで「3.11」の報道に触れました。「テゼ」という場所に、千葉さんはおられました。そこには修道院のような場所があり、全世界から様々な人が集って祈りの生活を送っておられました。千葉さんはそのスタッフとして、東日本大震災を知ったのでした。

「テゼ」は、1940年に始まりました。フランスの「1940年」は、特別な年です。その年、ナチス・ドイツはフランスに侵攻し、パリを含むフランス北部はドイツの支配下となり、多くの人が傷つきながら、テゼ村を含むフランス南部へと難民となって押し寄せ、また、レジスタンス活動へと向かって行きました。その1940年のテゼ村に、「テゼ」は始まったのです。そもそも、宗教(当時のフランスの場合は、プロテスタントとカトリック)の違いを乗り越えることができないかと、プロテスタントのロジェ・ルイ・シュッツ＝マルソーシュさんが祈り、活動を始めたものでした。「テゼ」は期せずして、政治と軍事では戦乱へ進むほかない現実の中へと「平和」をもたらすセンターとなったのでした。(↓カリタスの皆様)今、ロシアがウクライナへ侵攻し、そして巨大な難民が生まれています。その光景を見る私たちは、津波と原子力によって故郷を追われた痛みを思い出しています。「原子力政策」も「防潮堤」も、あの時、私たちを裏切った。そうしたもので安心して自分たちは、どうだったのだろう——その痛みを、思い出しています。千葉さんは、今でも、南三陸町の各地へ足を運び、津波被災者の方々との関係をはぐくみ育てながら、「復興」へ向けた困難な歩みに伴走されています。いくらか感染症のパンニックも収まりつつあり、全国からのボランティアの方々もまた、お越しになっているそうです。そして今、千葉さんは、米川にあるセンター「カリタス南三陸ベース」を「巡礼」の拠点にできないかと志をお持ちです。その夢がゆっくり叶えば、そこには確かに「復興」の姿が見えてくるかもしれません。(●左写真千葉代表)

3月の例会は、そんな千葉さんたちに、「テゼ」の祈りをしていただきました。短い聖書の言葉を美しいメロディーで繰り返し歌い、聖書の朗読に耳を傾け、沈黙する。そうして「平和」を思い出し、また、歌う。そうした時を過ごしました。片道1時間の距離をおして来訪くださったカリタス南三陸の皆さんに、深く感謝を覚えたことでした。(川上記)



4月拡大役員会報告

日 時 2022年4月8日(金) 16:30~17:30
 場 所 YMCA 石巻センター
 出席者 日野峻、大林健太郎、川上直哉、清水弘一
 櫻井美智江

1. 開会点鐘 日野会長
2. ワイズソング 一同
3. 会長あいさつ 日野会長
4. 軽食
5. 報告事項

(1) 3月第一例会報告

日 時 2022年3月25日(金) 18:30~20:30
 場 所 YMCA 石巻センター
 内 容 前ページ例会報告参照

(2) 3.11 こども文庫の開催について

日 時 2022年3月12日(土) 13:30~15:00
 場 所 石巻センター
 内 容 読み聞かせ本: ①「まつのこピノ」
 ②「りんごのおじさん」 ③お楽しみゲーム
 : 新聞じゃんけん

参加者 長沼、小松代、郷内、川上、櫻井、日野、
 清水、ゲスト: 大人4名、子ども4名
 計15名

(3) 思い出のランドセルの発送作業について

日 時 2022年3月23日(水) 午後
 場 所 家具の広場
 内 容 優良石材店組合寄贈 99個分発送(第一貨物
 山形支店より横浜港倉庫へ) 3月24日到着済

(4) YMCA ストレッチヨガの開催

日 時 2022年4月6日(土) 10:00~11:00
 場 所 市営新蛇田集会所
 参加者 金森、青木、平井、川上、清水、一般参加者
 女性8名、男性1名 計12名

その他 次回開催 6月15日(水) 10:00~11:00

(5) ランドセルギフト事務局会議、第3回実行委員会

日 時 2022年3月29日(火) 15時:事務局会議
 19時30分:実行委員会
 場 所 ZOOM会議(川上、清水出席)
 内 容 ①実行委員長代行の選任:大野勉 ②実行委
 員会と覚書案の検討

6. 協議事項

(1) 2022年4月第一例会の開催について

日 時 2022年4月22日(金) 18:30~20:00
 場 所 石巻センター
 内 容 ゲストスピーチ 久我真奈美 様
 (Barcarolle Sant-Juan 代表)
 テーマ:「バルカローレ・サンファン少年少
 女合唱団」の活動について

(2) 3.11 こども文庫の開催について

日 時 2022年4月23日(土) 13:30~15:00
 場 所 石巻センター
 内 容 読み聞かせ本: 未定(4月8日:事前練習)
 (3) 石巻栄光教会 2022年度定期総会の開催について
 日 時 2022年4月24日(土) 11:30~
 場 所 石巻栄光教会礼拝堂
 出席者 日野、清水
 その他 教会への献金について

(4) 被災地テストツアーの開催について

日 時 2022年4月25日(月)~26日(火)
 行 程 1日目:仙台~志津川~田束山(ホテル観洋)
 2日目:大瀧~山経塚~仙台
 参加者 8名(予定)

(5) 石巻と神戸を繋ぐチャリティーコンサート開催 の準備状況について

日 時 2022年4月30日(土) 13:00~15:30
 場 所 石巻栄光教会礼拝堂(石巻会場)
 ①好文館高校吹奏楽部 担当:川上(曲目等)
 ②Barcarolle Sant-Juan 少年少女合唱団
 担当:青木、清水(曲目等の打合せ)
 ③「復興応援詩」の歌 担当:川上(事前練習:
 3月、4月例会で練習)

その他 ①オンラインの配信について(大久保理事か
 らの要請) ②当日の役割分担

③タイムスケジュール案について(別紙大野案)

(6) 5月第一例会ゲストスピーカーについて

NPO法人 ひたかみ水の里 代表理事 新井高広氏

(7) クラブ通信4月号への投稿のお願い

(8) ウクライナ募金について

①北東部会計より10万 ②クラブ会計より3万

(9) 後期会費納入のお願い 櫻井会計

7. 閉会あいさつと点鐘

日野会長

■ 今後のクラブスケジュール(4~6月)

3.11 こども文庫	4月23日(土)	石巻センター
被災地モニターツアー(1)	4/25~4/26	志津川~奥州
思い出のランドセル実行	4月28日(木)	ZOOM19:30~
石巻~神戸を繋ぐチャリコンサート	4月30日(土)	カフェ Quincy
被災地モニターツアー(2)	5月3日(火)	福島県浜通り
5月拡大役員会	5月13日(金)	石巻センター
クラブ5月第一例会	5月27日(金)	〃
3.11 こども文庫	5月28日(土)	〃
第25回東日本区大会	6月4日(土)	ホテル東日本宇都宮
〃(2日目)	6月5日(日)	〃
6月拡大役員会	6月10日(金)	
YMCA ストレッチヨガ	6月15日(水)	新蛇田集会所
クラブ第一例会	6月24日(金)	石巻センター
仙台YMCA 会員総会	6月25日(土)	YMCA 立町会館

3.11 メモリアルプロジェクト

YMCA ストレッチヨガ教室

昨年12月開催以来、2月開催予定だったヨガ教室が新型コロナの影響で中止となり、4月6日、4か月ぶりの開催となった。桜前線の到来とともに地域住民の方々も待ち遠しかったようで、コロナ対策のため申し込み定員を10名で募集したが、すぐ満員となった。

金森講師のユニークな掛け声で時折参加者の笑いを誘い、全員、心地よい汗を流した。次回は6月15日(水)10時～11時の開催となりました。



YMCA 報告

担当主事：斎藤 勉

※2022年度がスタートしました。YMCAにおいても、4月6日(水)に春プロが終了し、4月9日(土)～全てのプログラムがスタートすることが出来ました。まだまだ、コロナ禍での活動とは異なりますが、感染対策をしっかりと行いながら、感染者が出ないように努めてまいります。

また、石巻ワイズのみなさんとの交流も大切にしなが、微力ではありますが頑張っています。よろしくお願ひ致します。

■ウクライナ緊急支援募金

毎日のように、ロシアにおけるウクライナへの攻撃が続く中。YMCAではYMCA同盟及びヨーロッパYMCA同盟を通じて、避難されている方々への宿泊施設支援、生活物資支援のために募金を呼びかけております。期日が2022年4月24日までとなっておりますが、多くの方々のご協力を得ることが出来ればと動いております。みなさまのご協力よろしくお願ひ致します。

以上



被災地・東北・フクシマ」モニターツアー

～「3.11 メモリアル被災地復興プロジェクト」の後継として！～

10周年」となった昨年、「3.11 メモリアル被災地復興プロジェクト」が進められ、そしてそれは成功裡に終了しました。「ワイズとYMCAと東北ヘルプ」の協働が、一つ形となりました。その枠組みは今、「思い出のランドセルギフト」につながっていると思います。もう一つ、「10周年」の後継プロジェクトとなればと願っている企画があります。それは「被災地・東北・フクシマ」のツアーです。3.11の破壊と喪失は、一つの空隙を作りました。そこに、全国・全世界の人々の思いが寄せられ・流れ込みました。その奇跡のような出来事の中から、「交流人口」という言葉が聞こえてきました。訪問し、声をかけ、記憶し、そして交信を続ける。そんな人々が、厚みをもって復興を支援して下さいました。そのことを数字で確認するのが「交流人口」でした。しかし、それでも「風化」は続きます。パンデミックも、のしかかりました。次第に記憶は薄れ、親しみも遠ざかる。「交流」からもう一歩、進まなければ、と思わされます。「復興」までの道ははるか遠いからです。被災地に移住して下さった方も多くおられます。でも、そうした人々を加えても「定住人口」は、減少傾向をとどめるには至っていません。そうした中で、最近、「関係人口」という言葉が使われるようになりました。「交流」をもって縁をつなぎながらも、移住して「定住」することは難しい、でも、風化には抗いたい。「関係」を深め、つながりを太くして、ともに「復興」を目指したい。「ポスト・コロナ」の流れもあって、そういう人が、増えているというのです。そうした流れに竿さして、「ツアー」を企画した次第です。「被災地」として知られた東北には、深く広がる歴史があり、そこに育まれた文化があります。しかし、それはあまり知られていません。それが知られていない、ということが、21世紀の閉塞と照応しているようにも思えます。逆に言えば、東北には、未来を拓くヒントがある。被災地の復旧状況を確認しつつ、「未来を拓くヒント」を共に見つけて行く、そんな旅を、考えています。そして、福島第一原発事故の被災地があります。それは、県境を越えて、広がっています(それで、私は「フクシマ」というカタカナを使うようにしています)。被災地には「復旧」すらおぼつかない現実がある。それでも、そこに、人は住まい、働き、生きている。その矛盾を知り覚えて忘れないこと。それが、おそらく「支援」の最も確実なものだと思います。4月・5月と、モニターツアーを開催します。「4月25-26日」は津波の被災地と東北の歴史、「5月3日」はフクシマを巡ります。まだ、「5月3日」の日帰りツアーには、空きがあります。ご興味をお持ちくださった方は、どうぞ、電話090-1373-3652(川上)まで、お知らせください。要綱を、お送りいたします。



Y's Men International

Japan East Region 2021-2022 理事通信

主題 “Think for the next generation.” 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
スローガン “We are stronger together than we are alone.” 「絆を深める時」

理事メッセージ

2021年-2022年東日本区理事
大久保知宏（宇都宮）



2022年2月24日未明（現地時間）ロシアによるウクライナへの武力侵攻が始まりました。私たち東日本区は国際協会のウクライナアピールに呼応して、世界YMCA同盟、ヨーロッパYMCA同盟が実施するウクライナ国民への支援のための募金活動を始めました。3月末で締め切った結果、737,000円が集まり、4月9日の役員会での決議で東日本区の会計から支出し、100万円の寄付を行いたいと考えています。また、各地のYMCAでも街頭募金活動などが行われており、それぞれのクラブでのそれぞれ地域からのウクライナ支援をお願いしたいと思います。ウクライナでのロシアによる武力侵攻から1か月が経過し、ウクライナからの難民は増加の一途を辿っており、避難先での生活も大変な状況となっています。

私たち東日本区では、継続的に日本YMCA同盟との連携の中で今世紀最悪の難民の発生に対して支援を継続していきたいと考えています。会員のご理解とご協力をお願いいたします。今号では、ページを割いて、3月18日にYMCAのグローバルネットワークの連携と支援によって無事に日本に避難したティエナ・ロバテンコさんの手記と、ウクライナYMCAの対応について一部を掲載します。（全文は同時に東日本区ウェブサイトに掲載します）ウクライナにおいて発生している危機への理解を深めていただければと思います。

今月はWeek 4 Waste「環境のための週間」、グリーンプロジェクトが強調月間のテーマとなっています。各クラブにおいて独自の活動をお願いいたします。

メッセージの最後に3月号の発行が遅れ、4月号との合併号となったことを深くお詫びいたします。

